

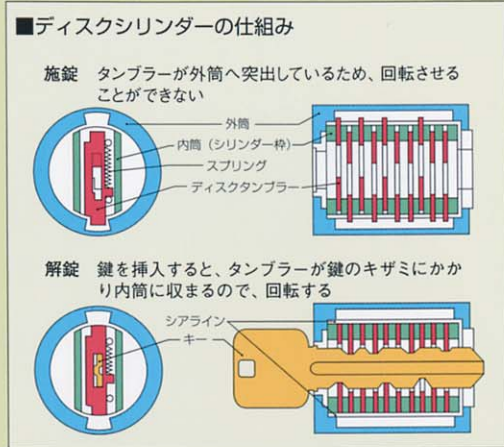
急増!
ピッキング犯

鍵と錠

私財を守る知恵の結晶

扉はなぜ開くのか？

家の鍵、車の鍵、引き出しの鍵、私たちは毎日鍵を使い、いくつもの扉を開閉して暮らしている。日常的に「鍵を開ける」「私の鍵」と言うが、正確にはドアに取り付けられ、戸締りをするほうが錠(Lock)、手に持ち錠を操作する



ほう が 鍵 (Key) は、二つをセットにしたものを錠前(Lock set)という。では、錠前はどのような構造で施錠と解錠がおこなわれるのだろうか。現在最

も普及しているディスクシリンダーは、鍵のキザミによってある位置に整列して固定を解くタンブラー(障害子)という部品がシリンダーにあり、鍵を抜き取った状態では、タンブラーはスプリングに押されて外筒へ突出しているため、ひっかかって回転させることができません、鍵を差し込むと、タンブラーは鍵のキザミにかかり内筒に収まるので、回転させることができ

る。材料は、開け閉めの繰り返し作業の摩擦を避けるため、タンブラーのスプリングには耐摩耗性にすぐれたリン青銅が使用されている。錠と鍵には異金属が用いられ、錠はステンレスなどが、鍵は錠よりはやわらかい洋白(銅・亜鉛・ニッケル合金)などが使用され、キザミが摩擦しても作り直しができるようになってきている。とはいっても、最低二十万回(一日五十回

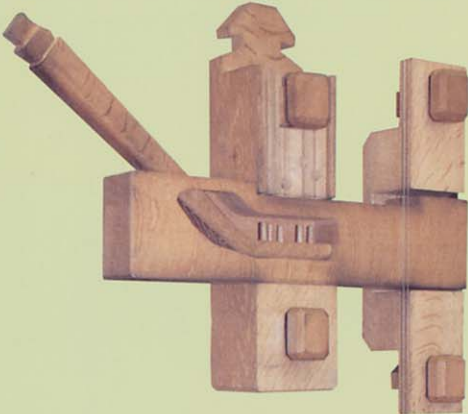
で十年間分)の使用に耐えうる強度が備えられているという。驚くべき完成度 古代エジプト錠

現在使用されている錠前の原理は、実はすでに古代エジプト時代に完成していたという。紀元前二〇世紀頃、エジプトカルナック大神殿遺跡の、回廊の柱には錠前が描かれていた。現在最古の錠前といわれるエジプト錠である。この錠前は木製ながら現代に通じる構造を持ち、とくに鍵の機構を備えている点がたいへんすぐれている。鍵は一見スパゲティを茹でるときのトンクに似た形状で、鍵を差し込んで上部へ持ち上げる、鍵の先端の突起が錠のタンブラーを押し上げ、かかぬぎが自由にスライドする仕組みになっている。現在のピンシリ

ンダーの原理と同じである。あまりに高度な技術ゆえに、エジプト錠は実は後世に作り上げられたものではないかといわれるほどだ。その後古代ローマ時代に入ると、錠前は金属製のものが姿を見せ始める。大半は鉄製だが、腐食により発見されるものが少なく、かわりに耐食性の良い青銅をはじめとした銅合金で作られ

ンダーの原理と同じである。あまりに高度な技術ゆえに、エジプト錠は実は後世に作り上げられたものではないかといわれるほどだ。その後古代ローマ時代に入ると、錠前は金属製のものが姿を見せ始める。大半は鉄製だが、腐食により発見されるものが少なく、かわりに耐食性の良い青銅をはじめとした銅合金で作られ

ンダーの原理と同じである。あまりに高度な技術ゆえに、エジプト錠は実は後世に作り上げられたものではないかといわれるほどだ。その後古代ローマ時代に入ると、錠前は金属製のものが姿を見せ始める。大半は鉄製だが、腐食により発見されるものが少なく、かわりに耐食性の良い青銅をはじめとした銅合金で作られ

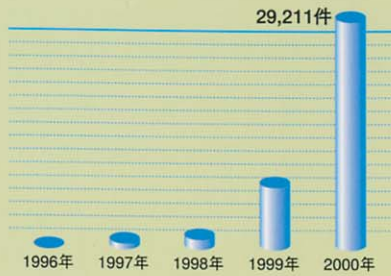


古代エジプト錠(復元) [美和ロック㈱ショールーム]

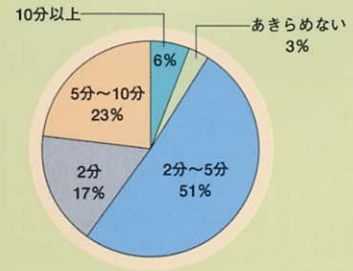


美和ロック株
広報室長 越野則之氏と本社ショールーム

■全国ピッキング被害件数
【警察庁調べ/出典(社)日本防犯設備協会資料】



■泥棒が侵入をあきらめる時間
【(財)都市防犯研究センター調べ】



猿をモチーフにした錠と鍵は真鍮物(中国)



精密な黄銅製の錠前(中国)



真鍮ダイヤル錠。ペルシア文字を合せて解錠する(ペルシア)



古代ローマの錠(一世紀)



華麗な南京錠タイプの錠と鍵(十八世紀ドイツ)

た鍵が多く残っている。なかには金属製の錠に金属製の鍵を用い、回転させて開ける方式のものもあり、この時代の冶金技術や金属加工技術がある程度のレベルに達していたことがわかる。

美しい、ステータスシンボル

錠前は機能だけでなく、しだいにさまざまな形や装飾が施され、錠前は機能だけでなく、しだいにこのような華やかな装飾が増えたのは、錠前が一種の象徴性を持つからと思われる。錠前を使用するものは、非常に多い。

このように華やかな装飾が増えたのは、錠前が一種の象徴性を持つからと思われる。錠前を使用するものは、非常に多い。

「開けられない錠前はない」急増するピッキング

ヨーロッパ諸国に比べ、島国の日本は、外部からの侵入がほとんどなく、私有財産を守る錠前の歴史は浅い。「日本人は水と安全はタダと思っている」と表現されたこともある。しかし二〇〇〇年の全国ピッキング(針金に似た特殊工具を使用して、錠を開け侵入する窃盗犯罪)被害件数はお

よそ三万件に達した。とくに狙われている錠前は、集合住宅では約七割に設置されているというディスクリリンダーである。美和ロック株では、セキュリティ性を考慮して、ディスクリリンダーの販売を停止した。さらに、(財)全国防犯協会連合会が耐ピッキング性を評価したCPC認定シリンダーを積極的にすすめている。たとえばロータリーシリンダー(CPC認定)は、ピッキングで開けるのに五分以上はかかる。五分以上かかると泥棒が侵入をあきらめる確率は高くなり、ピッキング対策には効果的である。

最近では、カードキー、車などのリモコンキー、オートロック機能の登場や、さらには指紋や音声識別など高度なセキュリティシステムが開発されている。「ただよくみてください。それらのハイテク機器には、必ず鍵穴がついていますから。電気がストップしたとき、最後に開ける手段は鍵です」(美和ロック株 越野広報室長)。常に時代の先端を進んできた錠前は、時代に合せ形を変えていくだろう。しかし、古代エジプトから脈々と続いてきた知恵の結晶は、これからも幾多の扉を開閉していくに違いない。